

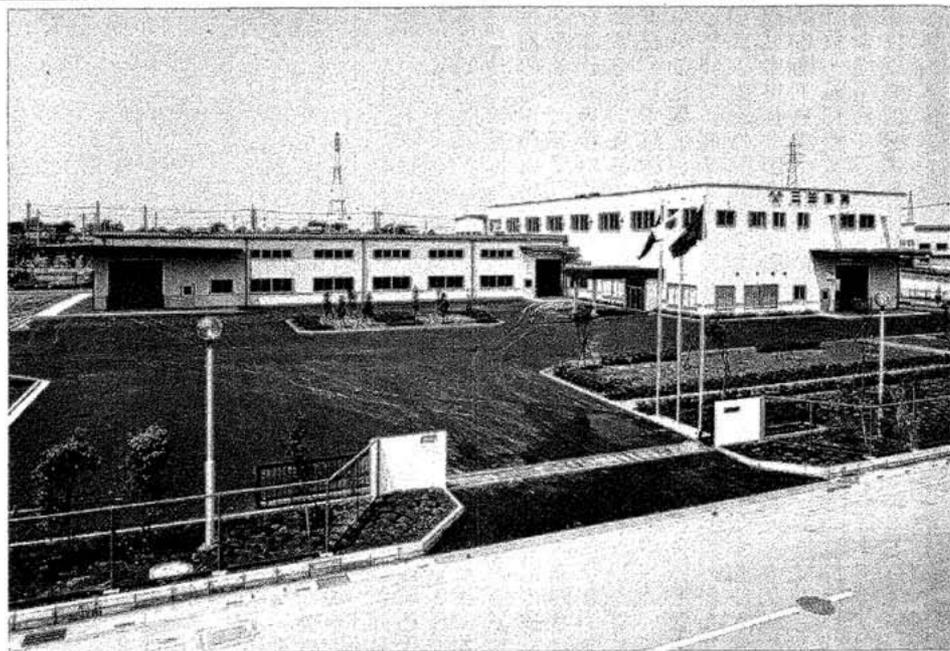
三笠工業

発行所
 東京都千代田区猿樂町1-4-3
 三笠産業株式会社
 電話 東京(292)1411 大代表
 テレックス 222-4607
 郵便番号 101
 PR旬報 年4回発行

三笠産業春日部工場

新工場落成す

春日部市豊野町の工業団地に新築落成した春日部工場を地元関係者の方ならびに笠友会等のお取引先の方々に披露する祝宴が、五月十三日(月)午後一時より竣工した新工場で行われた。春日部新工場の規模は敷地面積九一七七平方メートル、一部が二階建ての事務所と工場は敷地面積二九二〇平方メートル。春日部市緑町の旧工場からの移転作業はこの翌日から直ちに着手され、五月末までに終了。館林工場と並び三笠産業の新鋭工場として振動ローラー、コンパクター、カッターの生産にフル稼働に入った。



この日、竣工披露のパーティに先立ち、午前十時三十分より、新工場の前庭に建立された朱の色彩も鮮やかな鳥居を配した稲荷社の社前に於いて京谷社長以下、本社及び工場の幹部社員ならびに今回の建築工事に携わった方々が参列し、三笠の守護神である豊川吒枳尼真天の遷座式が八幡神社の押田神官により厳かに執り行われた。引続き工場内に設けられた式場に於いて、春日部新工場の竣工式が行われ、工場の設計ならびに監理に努力された馬上建築設計事務所と工事を請負った阪和興業の両社に対し京谷社長より感謝状と記念品が贈られた。席上挨拶に立った京谷社長は、「県・市当局のご関係の皆様のご協力を頂き、新工場の完成を見る事ができ、長谷川専務の長年に亘る夢を叶えることができてまことに喜ばしい次第です。新工場では館林工場とならぶ主力工場として、ローラーをはじめとする三笠の製品をどしどし作ってゆきます」と述べ、且つ、工事に当たった皆さんのご努力を讃え、無事竣工を祝い参列者一同は

竣工式で挨拶する長谷川専務



長谷川専務の音頭で乾杯して、式典は滞りなく終了。正午を三〇分程過ぎた頃から続々とお客様がお見えになり、三笠の役員一同打揃ってご迎える。係のご案内で真新しい工場内をご覧になり、パーティ会場となった工場の中央へお集りになって、定刻の午後一時には広々とした場内がほぼ一杯となった。この工場はL字形をしていて、正門を入って右手の二階建ての建物の正面が入口として事務所の二階には会議室、食堂などがある。この建物は中央縦方向に仕切りが、L字の内側になる部分が事務棟、外側が一階と二階とも工場棟で、この一階と二階は二基のリフトで結ばれ、二階で組立てた製品を再び一階に降すと、そこは塗装場となっている。この工場はレイアウトされた二階の奥にある階段をトントんと降りたところに平屋建ての機械工場が展開する。今回の披露パーティの会場として使われる場所には明日から工作機械が搬入されるのである。

司会者より紹介され盛大な拍手を浴びて京谷社長がマイクの前に立つ。春日部の地へ工場を建ててから、豊野工業団地へ移るまでの経緯と、関係の皆様のご協力にお礼を述べた後を引継いで、今度は長谷川専務が登壇。豊川稲荷遷座の報告に始まり、この工場には増築の余地を残してある。なるべく早い機会に実行に移

し度いとの意向を披露。両国から亀戸へ、そして春日部へと工場を辿って来た歴史と、豊野工業団地誕生までの苦心談を淡々とした口調で述べたあと、今後のお力添えをお願いして挨拶を終った。この後、佐久間県議員、田中市長(代理)、野中前衆議院議員、関根春日部商工会長とご来賓の方々のお祝いの言葉が続き、豊野工業団地の建設にかけた長谷川専務の熱意の一端が、ご来場の皆さんに披露される一幕もあった。そして、いよいよ京谷社長、長谷川専務、佐久間県議員、関根商工会長長の四氏による威勢のよい鏡開き、関根治郎春日部市議会議長の音頭で高らかに盃をあげ祝宴にと入った。顔見知りの人々の多い宴会のこととて、たちまちのうちに多くの談笑の輪ができる。か

披露宴会場
 工場内にしつらえられた披露宴会場。多くの人々が集まり、祝宴が行われた。

竣工披露宴で挨拶する京谷社長

東北三笠レンタル会設立さる

東北三笠レンタル会は、四月十九日(金)日本三景の一つ松島を一望のもとに見おろすホテル松島大観荘に於いて設立総会が盛大に執り行われた。午後二時三十分には御集約三十分だいた約三十分社の方々は、ホテル駐車場内に設けられた「三笠新製品発表会場」に案内され、京谷社長以下三笠幹部の出迎えを受け、用意された天幕の中で二時四十分からの第一部、「新製品発表実演説明会」の説明に耳を傾けられた。荻本営業部長が司会をつとめ、松本下、磯部両技

三笠レンタル会設立総会

三笠レンタル会設立総会。会場は大観荘老松の間に移り、午後三時四十分より第二部の三笠レンタル会設立総会が荻本営業部長の司会で開会した。挨拶に立った京谷社長は、「多数の皆様が手前どもの趣旨にご賛同賜り、設立総会にご来場頂き衷心より感謝致す次第でございます。ここに皆様方との間に開かれ、また新たなルートを三笠の伝統を拓くかためぬよう全力を傾注して続けて参りたい」と念願致しております。私共

昭和三十九年度 建設機械展示会の開催
 主催 日本建設機械化協会
 七月十二日(金)十六日(火)
 東京都中央区 晴海埠頭前広場
 三笠製品を展示実演します

が一度意を決して事を進め、まずからには必ずや皆様のご期待にお応え致す覚悟でございます。と三笠レンタル会に大きな期待を寄せられている気持ちを述べた。三笠産業側役員及び社員各担当の紹介に続いて、仙台出張所大沢所長が、ご列席各社の方々を一人づつご紹介。次いで会則案が逐条審議され全員一致で可決。そこで早速に会則に基き役員の方々が選出された。一たん会議は休憩に入り、その間に別室に於いて役員の方々の互選に依り会長、副会長はじめ理事、監事、特別顧問の方々が次のように決まりました。

会長 中野 勇
 (山中産業(株)社長)
 副会長 前田 晴光
 (中央機械リース(株)社長)
 理事 福田 幸夫
 (幸和リース(株)社長)
 理事 熊倉 武雄
 (福島リース(株)部長)
 監事 岩崎 英雄
 (橋崎産業(株)仙台支店長)
 特別顧問 京谷 達也
 (三笠産業(株)社長)

東北三笠レンタル会初代会長に就任された中野会長は、「何卒今後とも皆様方の温かいご理解とご支援を賜り、会の発展のために微力を尽して参り度いと存じます」と挨拶され、盛んな拍手をあげた。直ちに第一期事業計画書の審議に入り、中野会長より各議案と予算案を提出説明、全員の賛同を得た。

各地よりの祝電も披露され、東北三笠レンタル会設立総会はすべて滞りなく終了。午後七時より一階孔雀の間で懇親会が賑やかに繰りひろげられた。仙台出張所 小林英夫記



悲雨降る館林工場

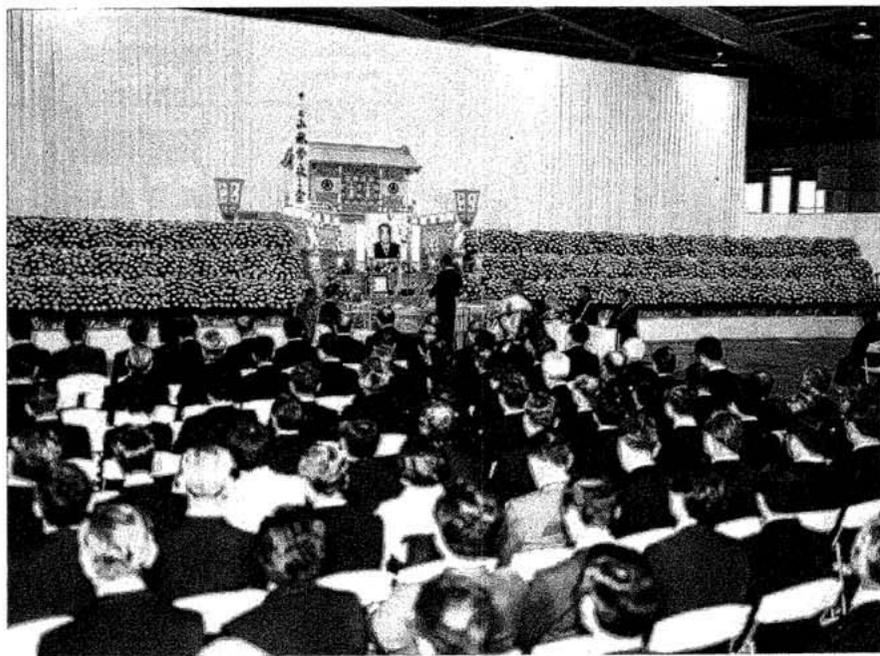
小林常次専務館林工場長逝去

七月一日しめやかに社葬行なわる

かねてより療養中の小林常次三笠産業専務・館林工場長は昭和六十一年六月二十日敗血症のため東京都港区虎の門病院にて逝去されました。

七月二日悲しみの雨の中、生前の専務の人柄と交遊の広さをしめしめ、政界・財界をはじめ各界の名士多数のご臨席を得、京谷社長を葬儀委員長として館林工場にてしめやかな社葬がとり行なわれま

京谷社長の弔辞につづき、館林市長 山本達司殿・館林市商工会議所会頭 正田宏二殿・館林機械金属工業協同組合理事長 三宅正直殿・三笠建設機械株式会社社長 小



小林常次氏略歴

大正九年一月二十五日群馬県館林市に生る。昭和十九年館林航器入社。二十二年小林製作所設立。三笠産業監査役、産業館林工場長。五十三年専務取締役就任。

主な公職歴

館林市公平委員会委員・館林市教育委員長・館林労働教育委員会副会長・前橋地方裁判所調定委員・館林市立養護学校予後指導後援会長・館林市新総合計画審議会委員等を歴任。

昭和四十九年館林市功労者表彰。昭和五十一年紺綬褒章を受章。

【弔辞】

三笠産業株式会社社長 葬儀委員長 京谷達也 小林専務、社葬をとり行なうにあたり、ついに最後のお別れを申しあげなくてはなりません。しかし千万言を費してもあなたを悼むに充分な言葉は私に述べざる自信がございません。

ここに各界名士の方々多数のご参列を賜りました。いまも小林さんの遺影の前でどうすることも出来ない淋しさにとらわれ、立ちつくしておられます。私はあなたを死に至らせたガンに限りない憤りを感じます。出来るものならばひねり潰してやりたいほど激しい気持ちにかられたてなりません。しかしあなたは、死の数分前に「皆さんありがとう、ありがとう」と言われたというこ

それでは小林専務さようなら安らかな眠りをお祈り下さい。ご冥福を心からお祈りするとともに会社発展のため全力をあげて邁進することを誓い、お別れのことばと致します。

【友を偲ぶ】



私は、運命論者ではない。その人の一生が生まれた時に、既に定まっていたわけにいかない。小林常次さんが病いに勝てず他界されてしまったことが、その人の運命だということなら、そんな過酷な運命があつてよいはずがない。

小林さんの死に、世の無情を嘆かざるを得ない。小林さんとの出会いは、昭和二十九年四月町村合併による館林市の誕生、私が教育委員会の総務課長になった時からである。

教育に深い関心と情熱をもたれていた小林さんから生まれたばかりの本市の教育について熱く語り話されたことが、いまだに私の脳裏に強く残っている。初対面の小林さんにその豊かな人間性、優れた人格、識見に心を打たれたのである。

の市民から高く評価され、将来に大きな期待がかけられていた。その偉大な、しかも市にとつて掛け替えのない常ちゃんはその世にいない。こころざし半ばにして去つた常ちゃんの心中を思うとき、どうこくを禁じ得ない。

常ちゃんをいつも中心とした同志的な会が多く生まれた。友和会、ユーモアクラブ、炉端会、また、文化や芸術にかかわるグループ等広範な活動をされ、私もその一員として、常ちゃんを始めとする多くの方々から温かいご指導を受けている。その幸せをかみしめている。

私が課長時代には、会合や懇親会の後など二次会、三次会によく誘われたものである。太田や足利方面にまでよく足をのばし、いつも午前様であつた。

常ちゃんには、市のために色々な仕事を頼みしてきてきた。大きな事業にはいつも常ちゃんが中心となり進めて頂いた。文化会館建設調査委員会、市庁舎建設調査委員会の会長として、また新総合計画の策定に当たつても大いに活躍されたのである。中でも教育に熱心な常ちゃんに教育委員をお願いしたらという事で、昭和四十九年九月に市長の命で私が交渉に行つたが、冗談でないという事で笑いに紛らされてしまった。これでは市長に報告にならないので強くお願いしたら、一応親父(社長)に相談してみようからという事であったが、結果はともなうでもないという事で断られた。どうも断る手段として社長をうまく利用したらしい。

またその決断が常に彼の大きな体の中にある緻密な思考力と繊細な神経からよつて来ている事を我々はよく知っていたからである。よく抜群の力の良さで物事をうまく処理する人がいるが、小林さんはその様な人でもなく、まして一時の感情や場当りのな思いつきで物事を決める人でもなかった。常に正論で人を説得していたし、人事の問題では常にその中に愛情があつた。

また、決つた事は必ず実行する力は抜群であつた。そしてその戦後の厳しき環境下から幾多の苦難を乗り越えて、企業をこれ迄にされた方なのだから、時に応じての意志決定の能力と実行力は並のものではない。それは察しがついてはいたけれども、全く小林さんには感服することはあつた。それでいて彼は自分から決して表面に立つことはしなかつた。

それでも周囲から推されていつの間にかその主要人物となつてしまふのが常であつた。先日、弔辞を書いていて、その勤められていた仕事の数の余りの多さに驚いてしまった。日頃公職については固辞し続けておられたのに何時の間にかこんな引きうけてしまわれただらうか。引きうければ徹底して勤められるその責任感が小林さんを更に忙しく、体を酷使することによって寿命を縮めてしまったのかも知れないと申し訳ない気持ちでいっぱいになってしまふ。私自身は、三十年も昔からお世話になつてゐる。

「よし、こつしようや」と彼が決断すれば大抵の事が決つてしまふ。こんなリーダーシップをもつた男が小林常次さんであつた。いろいろ問題があれど、小林さんが出席して自分の考えを述べればスムーズに決つてしまふ。商工会議所の集りでも彼が出席してくると私はホッとしたものだつた。

【決断と実行の人】



「よし、こつしようや」と彼が決断すれば大抵の事が決つてしまふ。こんなリーダーシップをもつた男が小林常次さんであつた。いろいろ問題があれど、小林さんが出席して自分の考えを述べればスムーズに決つてしまふ。商工会議所の集りでも彼が出席してくると私はホッとしたものだつた。

春日部新工場を

東西のお取引先に披露

三笠産業の春日部新工場（春日部市豊野町二一六一）の落成披露パーティーがさわやかに晴れ渡った五月二十三日に盛大に開かれた。

当日は北は北海道から南は九州各県の三笠の主力代理店、主力レンタル業者の方と常に躍進を続ける海外営業部の柱となつてゐるメイン商社、それに常日頃宣伝、新製品の紹介などでお世話になつてゐる報道関係合計一二〇社のご代表の方々に他用を省いて参集して頂いた。

私の長年の思いであつた新工場がここに落成を見た事は常に三笠製品を頭において営業して頂いた皆様方の御助力の賜物でありまして深く深くお礼申し上げます。

当工場は豊野工業団地の中にありまして敷地三千坪、建坪一千坪であります。当工業団地は敷地規制がありまして三千坪以上は出来ませんが、それを手一杯利用して完成しております。

昨年十一月二十四日に上棟式、五月十三日に落成式を終了し、翌十四日から引越し、七日間で稼働できるようになりましたが、生産工程を優先させたため事務所の整備はまだできておりません。

立派な工場が完成した以上その中味である製品も更に向上を図って競争に勝てる製品を大量に生産してまいります。それには皆様方の絶大な御助力が必要不可欠なものであります。従いまして今後とも尚一層三笠製品を可愛がって頂けるようお願いします。御挨拶の言葉と致します。

九州各県まで御参集願ひまして誠に有難うございます。懐かしい方々のお顔も拝見できまして感無量でございます。また三笠建設機械の御皆様に今回の行事に多大なる御協力を賜りまして誠に有難うございます。

日頃皆様には国内の販売にまたレンタル機としての御採用に三笠製品を御愛顧頂きまして誠に有難うございます。そして常に海外に三笠製品を紹介して頂き輸出市場の拡大に御努力を賜わつてゐる主力商社の皆様にも深く感謝の意を表します。また主力製品の宣伝に日頃お世話になつてゐる報道関係の方々にも御礼申し上げます。

お蔭様をもちまして念願の春日部新工場も落成し、この五月に決算を迎える営業成績もまずまずの成績を御報告出来ることは皆様方のためまぬ三笠製品の御愛顧の賜物と深く感謝申し上げます。

さて、唯今ますますの成績と申し上げましたが、国内市場は六年に亘る公共投資の据え置きで非常に厳し

いのが実情でございます。国内市場の落ち込みを海外市場でカバーしてゐる現情からまずまずと申し上げてまいりましたが、決して手離して嬉べる状態ではありませんが、こういう状況下では何如にお客様の多様化したニーズにこたへないかと思ひます。我が社ではこのニーズの多様化に対応する姿勢で御期待に沿うように努力致す覚悟でございます。

ローラーの新7型や更に小型のローラーも計画致しまして発売の時には納入できる態勢を整えたいと思ひますので今後とも絶大な御協力の程をお願い申し上げます。

本日は粗酒、粗肴ではございますが、ごゆっくりお過ごし下さい。幸いに存じ



(宴会にて挨拶する) 京谷社長

新工場を見学した後、実験場広場の一部を利用して三笠の主力製品の説明が行なわれた。このあと一五時四〇分、再びバスで新工場を出発、高輪プリンスホテルへと向う。道路はほとんど混んでいない、不思議な程スムーズで予定より早く高輪プリンスホテルに着。やがてパーティーの時間となり、第一営業部長京谷社長の下にプリンスルームにおいてパーティーが開かれた。京谷社長が最初に立つて挨拶



(新製品の展示説明)

師であつた。

六十五年という小林さんの人生は、その成し遂げられた業績からすれば、我々の百年以上に匹敵するものであるかもしれない。しかし、もつともつと生き続けていたが、もつと影響を与えていたが、もつとたかたか。ただ残念で涙もつきてしまふ程だ。

【追悼の言葉】

館林信用金庫 会長 遠藤 守三郎



私が、小林さんと事業を通りて深く付き合うようになったのは、常さん、コーさんと呼び合つた今から四十有余年、小林製作所を設立した当時よりであります。

お互いに戦後の混乱から生きるのに必死の時でありました。然し乍ら、持前のタフな気性に誰れからも親しまれる誠実な人柄は、すべての困難を乗り越え、めきめきと頭角を現わすようになりまして、三笠産業株式会社京谷社長と小林さんとの触れ合い、小林さんより社長を紹介願ひ会社が始まったのであります。小林さんの事業に対する貢献、ご苦労は極めて大きなものであつたのであります。



(みなさんにご挨拶する長谷川工場長)

私が、小林さんと事業を通りて深く付き合うようになったのは、常さん、コーさんと呼び合つた今から四十有余年、小林製作所を設立した当時よりであります。

お互いに戦後の混乱から生きるのに必死の時でありました。然し乍ら、持前のタフな気性に誰れからも親しまれる誠実な人柄は、すべての困難を乗り越え、めきめきと頭角を現わすようになりまして、三笠産業株式会社京谷社長と小林さんとの触れ合い、小林さんより社長を紹介願ひ会社が始まったのであります。小林さんの事業に対する貢献、ご苦労は極めて大きなものであつたのであります。

社長は、豪放磊落、然も反面忠誠人一倍心の通つた性格がお互い相通する個性であつたと思ひます。これに添へた小林さんは、社長が小林君……と言えは後は云わずとも通ずる間柄となつた事は事実であります。つまりそれだけに社長に對し忠誠を尽くした事によるものであります。とりわけ三笠産業館林工場発足当時から二人の仲に立つて相談相手、パイプ役を努めた関係もあり、その時代を偲んでひとしお懐かしさを感じております。社長が館林に愛着を持ち、当地に工場進出して来るようになったのも立地条件、土地柄がそうさせたのか、小林さんの忠誠心のある人柄がそうさせた事と信じております。

【友人との思い出話】

館林商工会議所 副会頭 高橋 喜一



館林の機械工業と言へば、昭和の初期の古い話をすれば、塚田、阿部、高柳、金子と、それから終戦後何百人、何十人の友人と共に非常にむずかしい時代に、一寸先もわからない時を過して、「こうさん」と私の初めての出会い、館林の機械金属協同組合を作ろうと発起人をつつり、集まつたのが始まりでした。今でも思い出すが、三笠産業の事務所、何回となくその会を開き、その頃は競争心むき出しの方々が集まつたのだからまとめるのが非常に大変だつたでしょう。

小林さんは温厚で然も広い心の持主でしたので、一人一人の持主としての苦勞し、二人揃つて深夜の帰宅となるし、二人のお互い家庭ではこれで京谷社長が館林へ見えたことが判つた程でした。

中でも当時は、小林さんと二人共々酒は嗜まぬが深夜の相手は二人交代で（一人隣室で休み）努めたのも、小林さんのご苦労であつた想ひ出であり、酒席での賑やかさは社長長任込を忠実に受け継いだものと思つております。

数々の想ひ出が脳裏に去来しますが、日頃健康であり、今後公私にわたつて活躍を期待しておつたのであります。天は余命を与えず突然の逝去は惜別の情断ち難いものがあります。

私が、小林さんと事業を通りて深く付き合うようになったのは、常さん、コーさんと呼び合つた今から四十有余年、小林製作所を設立した当時よりであります。

お互いに戦後の混乱から生きるのに必死の時でありました。然し乍ら、持前のタフな気性に誰れからも親しまれる誠実な人柄は、すべての困難を乗り越え、めきめきと頭角を現わすようになりまして、三笠産業株式会社京谷社長と小林さんとの触れ合い、小林さんより社長を紹介願ひ会社が始まったのであります。小林さんの事業に対する貢献、ご苦労は極めて大きなものであつたのであります。

四月末日、金庫総代会監事として再選の折、監事を代表し力強い挨拶を頂き、再入院前に自宅訪問の折には、私の「人生感」と云う前言葉から何となく話して呉れたのが最後の言葉とて誠に残念でなりません。

謹んで故人の人徳、偉業を偲び御冥福を心から祈ります。

と私ばかりでなく、多くの人のゴルフの先輩でした。コートを願つたり分無理を言つたのもありますが、もう二十数年前になります。プレリにもマナーはよいし、人の気持ち引立てるし、数えきれない程一緒にプレリをしたが、三ホールから聞える高笑い、廻りの人をつつみこんでしまふ。

私とパートナーでプレリをするも弥次喜多道中になつて、スコアは関係なし、実に楽しい先輩でした。

又、私のせがれの仲人親になつてもらへたし、公私共々ずいぶんとお世話になつた。これからは何でも相談のつてもらえるし、大リーグとしてお供出来ると思つていますが、非常に残念なことです。

私が思うに館林商工会議所会頭さんになつてもらつて、商工業の指導にその手腕を発揮してもらいたかつた。まだまだ書きたい事はたくさんありますが、思ふにまかせず思い出の一端を書いて終わりと致します。

私より年下ですが大先輩の「こうさん」さようなら。



流楽猿法 三笠丸 永井 郁



レンタル業界の大手である(株)カナモト(本社室蘭市港南町一丁目六番十一号)では北見営業所(北海道常呂郡端野町三区三五八八)をこの程オープン致しました。

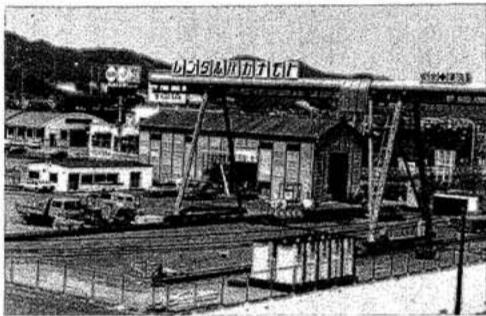
新営業所は、国道39号線に面し、北見市内はもとより網走、美幌、紋別方面へも短時間でレンタル機が納入できる大変に立地条件の良い恵まれた場所です。同営業所は北海道内では十二番目、全国では二十番目の営業所となり、北見営業所の開設により、カナモトさんでは道内を完全網羅す。

された訳で、ユーザーさんの御要求にも万全の体制が完成された事になり、今後の活躍が期待されます。

同営業所の敷地は、二〇〇坪を有し、敷地内には近代的なクレーンと、一〇〇パーセントユーザーのニーズに応えるべく大型から小型迄多種多様なレンタル機械が勢揃いしている様子は正に壮観で頼もしいかぎりです。小西所長始め皆様のより一層のご活躍と、(株)カナモトさんの益々の御発展を心よりお祈り申し上げます。

札幌課 堀江記

(株)カナモト 北見営業所をオープン

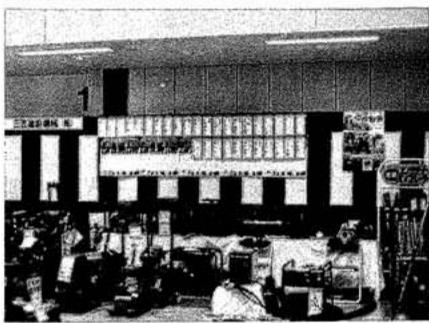


小西所長と新社屋



河上社長と展示会の様子

(有)河上金物店(富山) 創業一〇〇周年記念 総合フェア開催



当社が創立以来、富山県代理店としてお取引をお願いしております有限会社河上金物店(富山市館出町、河上弥一郎社長)さんでは、ご創業一〇〇周年を記念し、五月二十五日(二十七日の三日間富山産業展示館にて、建設機械、産業機器を始め工作機械、機械工具、電気器具等、河上金物店さんのお取扱商品を網羅し「フェア」を五月二十五日から三日間盛大に開催されました。

河上金物店さんでは今日この展示会のため三年前にも総合展示会を開かれ、小手調べは

河上金物店さんは明治十八年初代河上弥三郎氏によって金物商として創業されたご当地随一の老舗であります。爾来、現社長さんまで四代にわたって益々の隆盛を誇っておられます。

初日は地元政財界のお歴々の出席のもと開会式が行われ、引き続き華々しく展示会の商戦の火蓋が切って落されました。

河上金物店さんは明治十八年初代河上弥三郎氏によって金物商として創業されたご当地随一の老舗であります。爾来、現社長さんまで四代にわたって益々の隆盛を誇っておられます。

河上金物店さんは明治十八年初代河上弥三郎氏によって金物商として創業されたご当地随一の老舗であります。爾来、現社長さんまで四代にわたって益々の隆盛を誇っておられます。

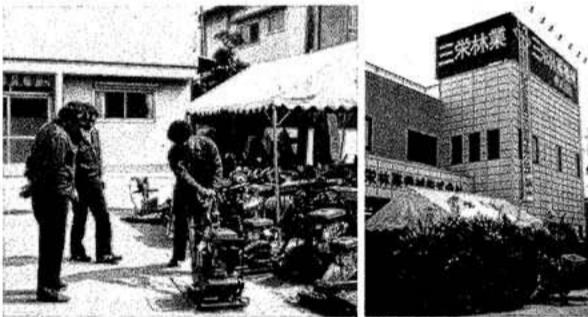
三栄林業機械(株) 新社屋落成並びに 創業20周年を記念して 展示即売会を開催

山梨県における有力な販売店である三栄林業機械(株)社長三枝益良氏、本社中巨摩都竜王町富竹新田一九八九一三(一)さんでは新社屋落成並びに創業二十周年を記念して四月十二日に落成式、十三日、十四日に展示即売会を盛大に行なわれました。

落成式は生憎の雨天の内にもかかわらず、多数の来賓及び関係メーカー各社が参集して十一時より執り行なわれ、式は時の経過とともになごやかなうちに盛り上がり、三栄林業機械さんの新たな出発を飾るにふさわしいものとなりました。

十三日、十四日両日の展示即売会はずっと変わって晴天となりました。新社屋内の商談コーナーでは用意されたビール、樽酒など、アルコールも多少入り、くつろいだ雰囲気の中で次々と商談もまとまってまいりますと景気のよい三本締め音も鳴りひびき、我三笠のコーナーでもR85型

三栄林業機械(株) 新社屋落成並びに 創業20周年を記念して 展示即売会を開催



前後進コンパクターをはじめ、高周波バイブレーター、ランマー、コンパクター等統々と成約させて頂きました。

三栄林業機械さんは中央高速道路、甲府昭和インターから車で五分とかわらない場所に位置し、甲府市街中心地にも程近く大変有利な立地条件に恵まれています。新社屋は鉄筋二階建て、一階が白を基調とする明るく広々とした事務所であり、外観と合わせて非常に瀟洒な建築となっております。

三枝社長さんは「誠実」の二字を最も大切になさる方であり、社員の方々も結束して社業に取り組んでおられます。これを機に今後益々の御発展と皆様の御健康を心よりお祈り申し上げます。

平田記

すでに終わっております。現況は公共工事の端境期と受注件数も時間と共に活気を呈し、さすが一〇〇年の歴史をもつ河上金物店さんの幅広い客層に改めて敬意を表した次第です。

今、三笠としてもしっかりと力を注いでおります前後進バイブレーター、コンパクター群が目標台数を越えた受注量を得、又常に三笠の基礎商品として着実に売上げを伸ばしております。高周波バイブレーターが展示会の売上を占めた極め

て有意義な内容のものであります。三日間の来場者は二万人、受注額は九億円を超える一社での展示会では希にみる成果と聞いております。これも平常の河上金物店さんの実力の一端を表わしたものであり、今後益々のご繁栄を心からお祈りするものであります。

最後に建設課の森田次長、村林課長さんを始め課員の皆様のご協力に御礼を申し上げます。三笠建設機械(株) 松波報

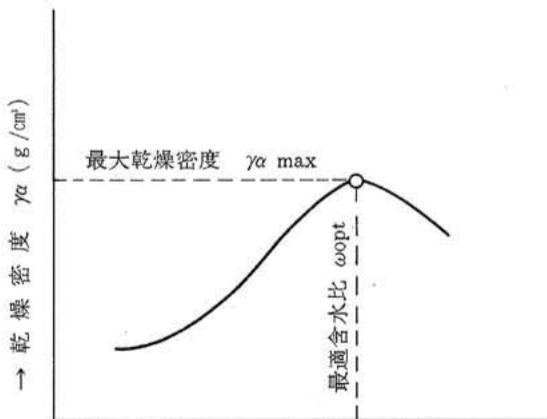


第25回

技術教室 締固め機械の性能を標示するの何トンのローラーに相当というところが昔のカタログを見ると書いてありましたが、近頃のものには見当りませんが何故ですか。

松本の宮沢さんのご質問にお答えします。

三笠総合カタログを年代を遡って調べてゆきますと、一九七九年版までは振動ローラー・コンパクター・ランマー等の仕様は輦圧力(中略)おのずから土の性質にも差がある。ローラーに匹敵」と書いてあります。この年を境に翌年一九八〇年版からはランマーは一回毎の打撃力、コンパクターと振動ローラーは遠心力で締固め能力を表現して振動ローラーは、そのモロサシとして、機械性能を比較するのではなく、モノサシとして、無理な静線圧と動線圧をつけ加えてあります。なぜ振圧力の機械の性能はおおよそ次のように分類されます。



最適含水比と最大乾燥密度

- (1) 静的荷重(重量)によるもの
 - (2) 動的荷重によるもの
 - (3) 振動(遠心力)によるもの
 - (4) 衝撃によるもの
- 振動ローラー・コンパクター・ランマー等の締固め機械の性能を表す項目としておもなものは次のものがあります。
- (1) 静線圧(静荷重(自重)をロール幅(締固め幅)1cm当りにしたものの)
 - (2) 動線圧(静荷重(自重)に起振力を加えたものをロール幅(締固め幅)1cm当りにしたものの)
 - (3) 起振力
 - (4) 打撃力
- 振動ローラーは振動装置で振動を起し、自重に起振力を加えることにより、締固め効果をあげるもので、ハンドガイド式、搭乗式等に分類され、将来の締固め機械の主流と目されています。
- コンパクターは一軸偏心の起心体を高速回転させ、主として表層仕上げに用いるものと、二軸偏心式の起振体を有し、前後進して基礎締固め或いは表層仕上げを行うものがあります。
- ランマーは振動ローラーやコンパクターと異なり、大きなストロークで跳びはね、強力な打撃力で締固めて、自重に比して大きな締固め効果が発揮できます。それぞれの締固め機械の仕様諸元表により性能をしっかりと確かめることが、先づ一番大事なことです。その上で、作業目的に適合する特性を持った締固め機械を選定してください。
- 参考文献
(1) 建設の機械化誌 第二〇六号
(2) 日本建設機械要覧 (一九八三年版)